第1回 新嵐山スカイパーク自分ごと化会議　議事録

1. 開会

2　町長あいさつ

3　自分ごと化会議の説明　（一社）構想日本　統括ディレクター　伊藤氏

　・自分たちのこととして考え、結果は自分たちのもの。

　・改善提案シートを作成してもらう。とにかく感じたことをどんどん書いてもらう。

　・今回のような自分ごと化会議は、十勝管内だと清水町、幕別町で実施しており、

全国では色々なテーマで行っている。

　・具体的にどのように進めていくか。第1回目は、こちらからの説明など聞いてもらうこと

　　が多くなる。みなさんがどう感じているかでテーマが変わってくる。

　　会議で出た意見をどうやって見直していくか、意見を踏まえ、提案書として町へ提出。

　　グループ内での意見をまとめる。

　・無作為抽出2,000名から、今回応募された委員は46名。応募率は2.3％。

　・7月に実施された議員研修会で「住民参加の新たな視点・手法」にして自分ごと化会議

を紹介。その研修会には町長も参加され、今回の実施に至った。

４　芽室町および新嵐山活用計画についての説明　魅力創造課　参事　小林

○芽室町が目指すもの

　・まちづくりの計画として最も上位に位置付けられている総合計画で示されている。

　・総合計画の基本目標「１ 農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり」に新嵐山は

含まれており、この部分を念頭に置かなければならない。

　・町が気にかけている変化は、人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化、高度

経済成長期の終焉、ウィズコロナ社会等がある。これら社会背景の変化により、新たな

地域課題が生じており、それらを解決に導くため、町はシティプロモーションの推進が

必要という考えに至った。

　・シティプロモーションは、「まちの課題を解決すること」そして「まちの可能性を高める

こと」を目指している。

　それを進めるのが、令和3年4月に役場の機構改革で新たに創設された魅力創造課。

・魅力創造課では、町民を対象とした内向きの政策と町外を対象にした外向きの政策のベク

トルの異なる「内向き」と「外向き」を連動させ、新たな地域課題を解決していこうとして

いる。

　　新嵐山スカイパークについては、外向きの政策に含まれており、中長期的には観光の振興

　　や関係人口・交流人口の増、芽室のファンの獲得などに活用していきたいと考えている。

　・町全体として目指す方向や取り巻く環境変化への対応など、新嵐山スカイパークの活用を

考えるにあたっての要素としていただきたい。

○新嵐山活用計画について

　【新嵐山活用計画とは】

・新嵐山のあるべき姿を明確にし、具体的なビジョンを示したもの。

　　・町の重要な観光拠点である新嵐山の資源を有効活用し、再整備を加速するため、2020年

 　　3月に「新嵐山活用計画」を策定。

・新嵐山のあるべき姿と具体的アクションを示しながら、地域価値をつなぐ、人と人とを

　　　つなぐエリアとして、新嵐山スカイパークは、この町にしかない地域価値を体験できる

農村地帯の宿を目指している。

【第5期芽室町総合計画との関係】

・総合計画において、まちづくりの基本目標の一つである「農業を軸とした活力と賑わい

のあるまちづくり」の中で、観光拠点、観光基盤の整備地域資源を活かした観光振興の

取り組みを進めるとしており、その基本目標の実現に向けた施策の中で「新嵐山スカイ

パークの基本方針」を示している。

・新嵐山スカイパークの基本方針では、以下のことを記している。

着地型観光を推進する中心的な施設、観光拠点になること。

豊かな自然や地域のおもてなしなど町の優位性を最大限に活かしながら、観光客が

芽室町の個性を体感できる場になること。

町民の皆さんに新嵐山の魅力を町外へ発信して頂くことで、町民にとって自慢できる

誇ることのできる場になること。

・活用計画は、宿舎やスキー場など、建物や設備といった財産は町が持ち続ける前提で

進めており、管理運営の手法は、指定管理者制度を基本とした民間事業者への委託と

している。

【新嵐山スカイパークの設置目的】

・町の条例では「町民の健全なレクリエーションと健康の増進を図るとともに観光の振興

に寄与するため、新嵐山スカイパークを設置する」と定めている。

　条文の前段部分では芽室町民を、後段部分では町民以外をそれぞれ対象とすることから

活用計画の「③ターゲットの設定」では、町民及び町外からの来訪者をターゲットと設定

している。

【新嵐山スカイパークが目指す方向】

・改革を進める上で、誰のために何を目指すのか。

　誰のために … 町内・町外の区別なく、ここを訪れる全ての人のために。

　何を目指すのか … 農村地帯の宿で芽室町の地域価値を体感してもらう場所を目指す。

・特に、町外からの来訪者にお越し頂くことで芽室町とのつながりができる。芽室町を

好きになってもらえれば、マチのファンの獲得に繋がる ＝ ふるさと納税に結びつく

可能性も出てくる。

・多くの人にお越しいただける施設になることで、町民も新嵐山スカイパークを誇りに

思い、自慢できるようになる。

【新嵐山活用計画の進捗状況】

・グリーン期は「新嵐山の特徴づけに注力した新しい価値観のアピール」をポイントに

取り組み、グランピングやフォレストテラス、ドッグランといったエリア全体を統一

したコンセプトで括りながら、付加価値を加えた商品提供を行っている。

わんぱく広場やハンモックフォレストなど、地元の子どもたちの「遊ぶ」が増えている。

　　・改革のスタートとして、キャンプ事業の再開を契機に、ファミリー利用の推進に注力し、

　　　グリーンシーズンの賑わいを取り戻す結果となった。

・ウィンター期は「多様性のあるファーストタイマーに優しいフィールド」として、スノー

キャンプ＆グランピングやファットバイクダウンヒルなど、ゲレンデの新しい遊びが

増えたことで新たなゲストの満足度向上に繋がっている。

・キャンプ事業の通年実施をはじめ、スキーをしないノンスキーヤーの利用促進など、

様々な雪遊びができる場として、スキーゲレンデの新しい遊び方を増やすことにも

取り組んでいる。

【町が悩んでいること】

・1つ目は、農村地帯として魅力を高めたい。

そのためには、活用計画に沿った事業を推進したいところであるが、コロナの長期化

や物価及び燃料高騰など環境変化への対応が求められており、事業の見直しが必須で

あること。

施設の老朽化が激しく、販売する商品としての劣化を防ぐための対応は、待ったなし

の状況。「宿泊施設をどうするか」「スキーリフトの更新をどうするか」

・2つ目は、「新嵐山がすごく変わった」と　これまで利用してこなかった方や、しばらく

利用されなかった方から高評価を頂いている一方で、町民など、これまでの利用者から

は利用しずらくなったとの意見を頂いており、町民ニーズの把握・計画への反映が必要

であること。

観光拠点として観光振興に力を入れつつ、町民のレクリエーション、余暇を楽しんで

いただくため、町民利用の促進に向けた対応として、園内を散策できるウッドチップを

敷き詰めた「リスの森の散歩道」や木製遊具が楽しめる「わんぱく広場」など、トライ

アル実施を経て、2021年（令和3年）に実施してきた。「これまでの利用者をはじめ、

町民が新嵐山スカイパークに求めるものは何か」

【本会議の目的とゴール】

・会議の目的は「新嵐山活用計画の見直し」であり、見直しにあたっては、新嵐山

スカイパークのことを他人ごとではなく、自分ごととして考える、「新嵐山スカイ

パークの自分ごと化」である。

・この会議のゴールは、町民ニーズを把握するため、町民である委員の意見を取り

　まとめ、提案書として作成し、町へ提出すること。

　そして、提案書の内容を「新嵐山活用計画」に反映することである。

5　グループワーク

　・別紙議事録を参照のこと。

6　その他

　・次回以降の会議については、議案に記載のとおり。

7　閉会